

第21節

भारः परं पट्टकिरीटजुष्ट-
 मप्युत्तमारां न नमेन्मुकुन्दम् ।
 शवौ करौ नो कुरुते सपर्या
 हरेर्लसत्काञ्चनकङ्कणौ वा ॥ २१ ॥

bhāraḥ param paṭṭa-kiriṭa-juṣṭam
apy uttamāṅgam na namen mukundam
sāvau karau no kurute saparyām
harer lasat-kāñcana-kañkaṇau vā

bhāraḥ—大きな重荷; *param*—重い; *paṭṭa*—絹; *kiriṭa*—ターバン; *juṣṭam*—～で着飾られて;
api—たとえ～でも; *uttama*—上部; *aṅgam*—体の各部; *na*—決して～ない; *namet*—ひれ伏す;
mukundam—主クリシュナ、救済者; *sāvau*—死体; *karau*—手; *no*—～しない; *kurute*—～する;
saparyām—崇拜している; *hareḥ*—人格主神の; *lasat*—輝いている; *kāñcana*—金製の;
kañkaṇau—腕輪; *vā*—たとえ～でも。

体の頭部が絹のターバンで飾られていようと、ムクティ（自由）をさずけられる人格主神にひざまずかなければ、ただの重荷にすぎません。手も、きらめく腕輪で飾られていようと、人格主神ハりに仕えていなければ、死体を飾る腕輪にすぎないのです。

要旨解説

これまで説明してきたように、主の献愛者には3種類います。一流の献愛者は「主に仕えていない者はだれもいない」と考えますが、二流の献愛者は、献愛者とそうでない人たちを区別します。ですから、二流の献愛者は「教えを説くこと」が使命で、この節ではそれが「主の栄光を大きな声で説かなくてはならない」と表現されています。二流の献愛者は、三流の献愛者や献愛者ではない人たちを弟子として受けいれます。ときには、一流の献愛者でも、教えを広める目的で二流の献愛者の段階に降りてくることがあります。それでも、ふつうの人たち、つまり少なくとも三流の献愛者になる立場にある人たちは、この節で、絹のターバンか王冠を頭にかぶるほどの裕福な身分であっても、主の寺院を訪れ、神像にひれ伏すよう助言されています。主は、偉大な国王や皇帝をも含む万民の主ですから、凡人の目で裕福だとされている人たちでも、主シュリー・クリシュナの寺院を必ず訪

ね、神像にひれ伏さなくてはなりません。崇拜できる姿で祭られている主を、石や木で作られているなどと考えるはいけません。寺院の神像として現われた主のアルチャー化身は、その吉兆な存在をとおして墮落した魂たちに限りない恩寵をしめしているものだからです。すでに説明されたように、「聴く」という方法をとおして、「寺院に主がいる」という悟りを得ることができます。だからこそ、献愛奉仕を実践する最初の方法——聴くこと——がとても大切なのです。『バガヴァッド・ギーター』や『シュリーマド・バーガヴァタム』のような典拠ある情報源から、あらゆる献愛者たちが聴くことがなによりも大切です。物質的な地位で横柄になっていたり、寺院の神像にひれ伏さなかったり、科学的な知識を知らないのに寺院での崇拜を無視したりする凡人は、自分が頭にかぶっているターバンや王冠も、物質存在という海のなかにさらに沈んでいかせる重荷にすぎないということを思いしらなくてはなりません。頭に重りを乗せて溺れている人は、重りを乗せていない人よりも確実に速く沈んでいきます。愚かで横柄な者は神の科学を否定し、「自分にとって神はなんの意味もない」と言いますが、神の法則で脳血栓のような病に襲われ、物質的な財産という重りのために無知の海に沈んでいきます。神を無視して物質科学を高めるのは、人類社会という頭に重い荷物を乗せることですから、そうならないよう目を光らせなくてはなりません。

普通の仕事をし、主を崇拜する時間がほとんどない人なら、主の寺院を洗ったり掃除したりして、少しでも時間を充てることができます。マハーラージャ・プラターパルドラというオリッサの偉大な国王は、国を治める重大な責任のために多忙な日々をすごしていましたが、年に一度の主の祭典の日には、プリーの主ジャガンナータ寺院を掃除していました。たいせつなのは、どれほどの重要人物であっても、至高主の至上性を受けいれなくてはならない、ということです。この神の意識が、たとえ物質的な繁栄に恵まれている人でも助けてくれます。マハーラージャ・プラターパルドラが主ジャガンナータにひれ伏す思いが、彼を力強い国王にしていたのであり、だからこそ、当時のパタン族でさえオリッサには侵入できませんでした。そしてプラターパルドラ王は、宇宙の主への服従心を受け入れたことで、主シュリー・チャイタンニヤの恩寵をさずかったのです。ですから、腕に金のプレスレットを飾っている裕福な男性の妻であろうと、主には必ず仕えなくてはなりません。